

かみねっちょ新聞

令和2年 7月号

～あなたの知らない飼育員の世界～ 『コブとりニーヤン』

むかーし昔ほどではありませんが、去年5月末、ワタボウシパンシエの赤ちゃんが生まれました。名前はニーヤン、気づけばもう一年ちょっと経ち、生まれたときより体はずいぶん大きくなりました（生まれたときの体重は推定 40g ほど、今では 363g）。ただ、困ったことに、大きくなったのは体だけではありませんでした。なんと、あごに傷ができ、それが「コブ」のように大きく成長してしまっただけです。



6月

↑生まれてすぐの様子。まだコブはない。



11月

↑生後5か月ごろ、ひとりで動くことも増え、あごに傷ができています。



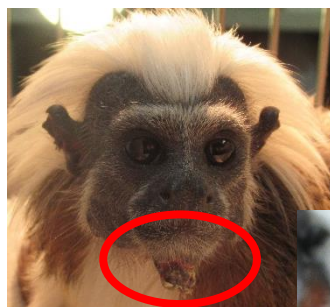
実はこの「コブ」自体はめずらしいものではありません。今はコブのない兄弟たちも小さい頃は同じようがありました。上手に動けずあごをぶつけている間はコブができ、移動が上手になると徐々に目立たなくなっていくのです。

そういうわけで、成長とともに自然と収まるものだと思っていましたがニーヤンだけは違っていました。コブは小さくなるどころか日に日に大きくなっていったのです！いつになればコブは引くのか、待てど待てど治りません。さすがに大きくなりすぎたので、獣医さんお願いしてコブを取ってもらうことにしました。変なものが大きくなってないか（腫瘍など）と心配していましたが、特に悪い腫瘍はありませんでした。ただ、ぶつけすぎのせいか、コブまで骨が伸びていました…。こんなことあるのか！？と驚きながらも計2回、コブとり治療を行いました…。

獣医さんの治療のおかげで、コブはずいぶん小さくなりました。しかし、今もあごをぶついたりこすったりしているようで、かさぶたがはげているときがあります。まさかまた大きくなるよな…？と少し心配していますが、今のところ大きくなる気配はありません。このまま落ち着いてくれればと飼育員と獣医は願うのでした。

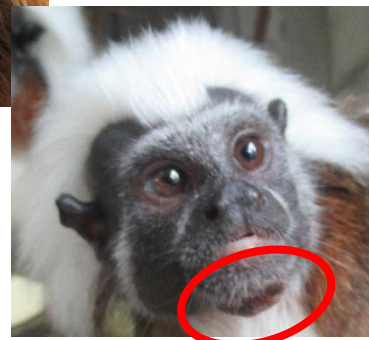
十人十色、皆同じではないと痛感した、ニーヤンのコブ事件でした。ちゃんちゃん。

飼育員 きむら



←治療前
かなり目立つほどの
大きさ…

治療後→
ほとんど目立たなくなりました！



ほくらのうみだより vol.4

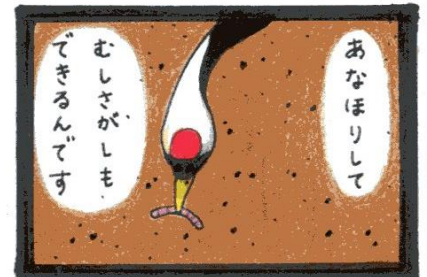
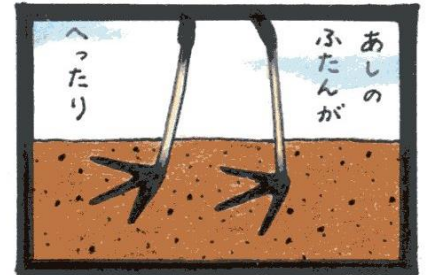
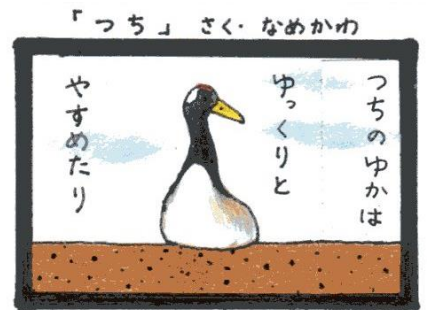
2016年からどうぶつ資料館で始まった、日立の海で捕まえた生き物を展示する日本一小さな水族館「ほくらのうみ」から、オモシロ情報をお届けします！今回はボクサー顔負けのあいつのお話です！



夜の海で釣りをしているとエイリアンのような奇妙な生物が釣れました。一見エビのようにも見えますが、ハサミではなく、カマキリの鎌のようなものを持っています。

調べてみるとシヤコでした。鎌のような前腕を目にもとまらぬ速さで打ち出し、獲物を捕らえます。パケツに入れていたらパンチで穴を空けてしまいました！

「シヤコ」
エビと同じような見た目をしているが違う仲間に分類される。肉食性で前肢の打撃は貝やカニの甲羅をも砕く威力がある。



8月の予定

新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、8月のイベントは見合わせます。ご理解・ご了承のほどよろしくお願い致します。

詳細はかみね動物園ホームページ <http://www.city.hitachi.lg.jp/zoo/>

または 0294(22)5586 までお問い合わせください



特別エッセイ

～世界トラの日になんで～

7月29日は「世界トラの日」！ということで、現在のかみね動物園では唯一のトラである【さわ】についてご紹介します。

さわは小さいころに人に育てられたためか人間が好きなようで、よく檻越しに体を擦り付けてきます。そして名前を呼ぶと「にゃ～お」と返事をし、尻尾をくねくねと動かしてくれます。



室内展示場（寝室）にいるときはお客さんにもかまってアピール！窓際をウロチョロしたり、後ろ足で立ち上がったたりしてお客さんたちを楽しませています。

そんな愛嬌たっぷりのさわにぜひ会いに来てください！！